

# 整形外科後期研修プログラム

## 1. 後期研修プログラムの基本理念

整形外科とは、骨・軟骨・筋・靭帯・神経などから構成される運動器官の疾患・外傷を対象とし、その治療をおこなう専門分野です。健康増進習慣の広まりや社会高齢化などの構造変化に伴い、骨・関節・脊椎における外傷や変性疾患は増加傾向にあります。卒後3年目以降の整形外科後期研修プログラムでは、これらの整形外科疾患に適切に対応できる基本的な知識と診断・治療技術を習得し、日本整形外科学会専門医の資格を取得するために必要な研修を行います。

## 2. 後期研修習得目標

- 1) 腰痛・関節痛・歩行障害・四肢のしびれなどの症状や骨折・関節脱臼・腰椎椎間板ヘルニアを含む脊椎疾患・骨粗鬆症などの疾患・病態に対応できる知識と診断・治療能力、手術技術を習得します。
- 2) 重度外傷や高齢患者に対応すべく、全身状態の把握、高齢・重症患者の全身管理、緩和医療等、幅広い基本的臨床能力を養成します。

具体的な経験目標は以下のごとくです。

1. 骨・関節・筋肉・神経・脈管の解剖と生理の基本的知識の理解
2. 四肢・体幹の整形外科的診察および骨・関節・脊椎疾患等の画像診断
3. 局所麻酔、関節注射・ブロック、緊急時の切開等の基礎的臨床手技
4. 整形外科的感染症の処置と抗生物質の使用法
5. 新鮮挫傷のデブリドマンと皮膚処置
6. 骨折・関節脱臼の発生機序の理解と整復方法の習得。ギプス固定法と介達・直達牽引法の技能と管理。骨折の合併症（コンパートメントシンドローム、神経麻痺、脂肪塞栓など）の理解と変形治療や偽関節、関節拘縮に対する処置
7. 四肢・体幹部の比較的単純な骨折に対する手術療法を含む治療法の習得
8. 脊椎症・脊椎炎・椎間板ヘルニア、靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症など脊椎疾患の診断と治療法の理解。MRI,CT, 脊髄造影などの補助的診断法の意義と特徴についての理解
9. 麻痺性疾患の高位診断、手術の適否、術前・後の評価管理の体得
10. 変形性股関節症、特発性大腿骨頭壊死症、先天性股関節脱臼、ベルテス病、大腿骨頸部骨折など股関節部疾患の病因と病態についての理解と人工関節などの治療法の習得

- 1 1 . 膝半月板損傷、各靭帯損傷、膝蓋骨脱臼、足関節部外傷などのスポーツ障害の発生機転と病態の理解と、その治療法の立案
- 1 2 . 関節リウマチをはじめとする各関節炎の病態についての理解と診断方法の習得、薬物的治療法（生物学的製剤を含む）・外科的治療法についての理解
- 1 3 . 骨軟部腫瘍の良・悪性の鑑別診断と悪性腫瘍治療プログラムの立案と遂行
- 1 4 . 転移性骨腫瘍の診断と治療法の習得
- 1 5 . 手及び上肢の外傷（骨折、脱臼、神経・血管損傷、腱損傷）に対する適切な初期治療法の立案と施行
- 1 6 . 小児先天性疾患の病態、診断、治療法の理解
- 1 7 . 上肢・下肢・体幹装具の適用と効果の限界の理解、および各整形外科疾患手術後の関節可動域、荷重、筋力強化訓練を含めた基本的リハビリテーションプログラムの作成
- 1 8 . 日常の診療録、手術記録、手術などのためのインフォームド・コンセントの記録が正確にでき、診断書・紹介状を適切に書く能力の習得

### 3 . 日本整形外科認定整形外科専門医取得

日本整形外科学会認定整形外科専門医は、日本整形外科学会会員となり日本整形外科学会の認定施設で臨床研修 6 年完了後、受験資格が得られます。ただし、卒後初期研修期間 2 年間は日本整形外科学会に入会していても必要研修期間に含めることができます。また、途中から大学院に進学した場合でもその期間を必要研修期間として申請することができます。したがって、初期研修終了後、この後期研修プログラムに参加し、同時に日本整形外科学会に入会すれば、4 年後には整形外科専門医の受験資格が得られます。当施設は日本整形外科の認定施設であり、専門医取得に必要な臨床症例教育、論文・学会研究発表の指導を行っています。

### 4 . 後期研修終了後の生涯研修

後期研修終了後、引き続き各人の希望のもとに、1 ) 大学院研究コース( 医学博士号取得 ) 2 ) サブスペシャリティー専門研修( 脊椎外科、関節外科、スポーツ整形外科などの専門性の高い領域での研修 ) 3 ) 地域医療コース( 関連病院、開業などで一般整形外科診療の継続 ) などを選択し、大阪大学整形外科の関連病院で研修を進めることができます。

## 5 . 大学院（博士課程）への進学

後期研修終了後、または後期研修を2年以上研修した後、希望者は大阪大学大学院研究コース（医学博士号取得）へ進むことができます。大阪大学大学院では、骨・軟骨のバイオロジー（分子細胞生物学、遺伝子改変動物の解析など）、画像解析による運動器キネマティクス、コンピューター支援外科技術の開発、バイオメカニクス、生体材料の技術開発、人工関節の開発、骨・軟骨・靭帯などの再生医療、神経生理学、遺伝子治療、慢性関節疾患（関節リウマチなど）や代謝性骨疾患の分子細胞生物学、骨軟部腫瘍の分子細胞生物学、遺伝性運動器疾患の遺伝子解析など多彩な研究が行われており、大学院の期間中、複数の研究テーマを担当し、それぞれの専門の指導医とともに世界に通用する研究に従事して頂きます。また、より踏み込んだ基礎的領域の研究を希望するかたは、大阪大学大学院医学系研究科の他の講座や他の研究科、大学院、公的研究所などでの研究も可能です。